

第5回新生匝瑳戦略会議 会議録（概要版）

開催日時：平成23年5月19日（木）

◆現地確認 午後2時50分～5時00分

- ① J T跡地
- ② 旧八日市場小学校米倉分校
- ③ 市民病院
- ④ 旧飯高小学校、旧飯高保育所
- ⑤ 飯高寺

出席委員：（学識経験者）木村乃、渡辺新

（団体推薦者）萱森孝雄、越川八代枝、鈴木和彦

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子、林暁男、八木幸市

（9人／名簿順）

欠席委員：（学識経験者）鎌田元弘

（団体推薦者）安藤建子、宇野充紘、越川竹晴、橋場永尚

（一般公募者）永野亮太（6人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）木内課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

◆会議 午後5時20分～7時20分

開催場所：匝瑳市役所議会棟第2委員会室

出席委員：（学識経験者）鎌田元弘、木村乃、渡辺新

（団体推薦者）安藤建子、宇野充紘、萱森孝雄、越川竹晴、
鈴木和彦

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子、林暁男、八木幸市

（12人／名簿順）

欠席委員：（団体推薦者）越川八代枝、橋場永尚

（一般公募者）永野亮太（3人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）木内課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 市民病院の経営健全化に関する「委員長意見書」について

委員長から事前に送付された「国保匝瑳市民病院の再建に関する意見書（案）」について、意見を伺った。「意見書（案）」の完成が会議直前だったこともあり、各委員からはもう少し時間が欲しいとの意見が寄せられた。以上のことから、「意見書（案）」の内容確認について、もう少し時間をとることとし、それに対する意見等については事務局まで報告することとなった。

(2) J A 青年部の活動と今後の課題について（報告）

農業を営んでいる委員から、千葉県やJ Aちばみどり、匝瑳市における農業の現状や課題、J A青年部として現在力を入れて取り組んでいる活動などが報告された。以下は主な項目。

- ・ J A ちばみどりとしての県内の農業産出額は第 1 位で、千葉県全体としての園芸産出額は全国で第 2 位（一昨年まで 4 3 年連続第 1 位だったが、茨城県に抜かれた）。
- ・ 千葉県は隣が東京都ということもあり、昔から少ない面積で高品質、他の産地では作れない時期に作ったりすることで、1 円でも高く売るという手法が主体。
- ・ J A ちばみどり管内（銚子市～横芝光町）の主な特産品は、銚子、飯岡の方で多く作っているキャベツ、ダイコン、旭はキュウリがメインで、外国人研究生を入れて周年出荷している。多少単価が下がっても銚子と旭は量を作って販売額を上げて、生産高から利益を得るといふ農法。
- ・ 匝瑳市の場合は、トマト、ネギ、イチゴ、ミニトマトなどが多く、面積が少なく家族経営が主体。生産力よりも高品質のものを高く売ることが中心。
- ・ J A ちばみどり青年部の構成人数は、全体で約 2 4 0 人。ここ数年、銚子と飯岡の新規就農者は減少傾向で、そうさは増加傾向である。
- ・ 現在、力を入れて取り組んでいることは「ポリシーブック（政策提言集）」の作

成で、JA青年部として行政や政府に訴えていく基本的理念が今までなかった
ので、JAちばみどりとして統一的なものをつくっている。

- ・ポリシーブックの内容の1つとして「転作」に関するものがあり、千葉県は平野が多く海拔が低いので、水田と排水の位置（高さ）が同じである。転作を「しない」わけではなく「できない」という現状があるが、そこを国に理解してもらえず、国からは「転作しろ、減反しろ、しなければ補助金は出さない」と言われているので、ここを変えていきたい。
 - ・行政の対応として、何か依頼した結果「検討します」という返事が返ってくるが「検討した結果」が返ってこない。
 - ・ここ数年「食育活動」に力を入れている。現在、椿海小で農業体験（サツマイモづくり）を行っていて、野菜のできる仕組みを一から理解してもらおうと、除草から児童にやってもらっている。
 - ・新規で農業を始めようとしたとき、機械などの初期投資に多額の費用がかかるので、自分で資金を工面するには限界がある。
 - ・そうさ管内（旧八日市場市、野栄町、光町）でも耕作放棄地が増加している。時間がたつにつれて、その農地の所有者が誰で、どこが管理しているのかという情報がわからなくなってしまうので、この問題を解決する法的整備が必要である。
 - ・そうさ管内で主力になっている製品はネギで、農家の約半数がネギ農家である。その後継者育成という目的で、ネギ専門の青年部「ひかりねぎ研究会」を設立した。
 - ・地元のブランドネギである「ひかりねぎ」は、地元では販売されていない。主に東京、横浜、盛岡、信州などに出荷している。
 - ・ひかりねぎの生産量は、他の産地に比べて少ないので、ロット（生産量）で産地間競争をすると、ひかりねぎは100%負けてしまう。それなら高品質でいいものを作り、折り合いのつかない市場とは取り引きをしない、というスタンスで常に価格交渉を行っている。
- ◆各委員から出された意見等
- ・ある一定程度までの規模拡大はコスト削減につながるが、あるレベルを過ぎると今度は大規模化のロスが出てくる。ひかりねぎのように、ブランド化するの

も一つの方法であるが、いずれにしても相当のお金がかかる。

- ・農協のイメージとして、手数料や利息が高い。市場などの販売経路を自分で開拓し、自分で出荷した方が利幅はあると思う。
- ・農業を行うにもそれに適した環境があると思うが、ひかりねぎのように地域の環境を生かして、品質で勝負するというだけでは、限界があるような気がする。
- ・ひかりねぎは、地域で作られる集落農業であるが、それに対し農協はどんどん広域化し、生産農民から離れていってしまっている。コミュニティーづくりという面からも、日本の農業が生き残っていくには、集落農業をいかにきちっとやるべきかだと思う。
- ・銚子方面は米が取れないおかげで、米以外のところでブランド化したり発展した。匝瑳市はおいしい米がとれたおかげで、今まで米作りがもってしまった。
- ・JA青年部で行っている食育活動も、小学校区というコミュニティー単位なので、ぜひ活動は継続してほしい。
- ・旧光町では給食にひかりねぎを使っているが、匝瑳市では価格的に折り合いがつかなかった。
- ・匝瑳市でも「規格外」に注目し、地産地消という面からも活用方法について検討を行っているが、生産者の理解と協力が不可欠で、さらに全てを賄えるだけの量を確保できるのか、といった問題がある。
- ・地産地消を「生産」と「消費」という経営原理だけでとらえるのではなく、この地域の農業を含んだ文化的な要素としてとらえていくべきである。
- ・一番の問題は「地消」で、生産したものの実際に販売できない部分（ロス）を、どのように有効利用していくかということがポイントになる。自分で食べるものとして、新たに商品化していくぐらいのレベルで考えていくべきである。
- ・市民病院のこととも共通するが、匝瑳市の農業をこれからどのようなものとしてとらえていくのかというコンセンサス（合意）がない限り、地産地消も意味がないものになってしまう。逆に「匝瑳市の農業を守っていかなくてはならない」という市民のコンセンサスがとれれば「高くても買う、高くても食べる」ということができるのだと思う。
- ・ネギが光るのではなく、地域が自ら光る覚悟があれば、周りも注目していくのではないかな。

(3) J T跡地、旧小学校施設等の利活用について

視察した跡地などについて、各委員から意見や感想を伺った。以下は主な項目。

- 例えばJ T跡地と市民病院の位置関係や、まちとのつながり、また中央地区と飯高地区の特性など、いろいろな単位で考えることが大事である。
- 経営を中心に考えている人が多いが、今求められているものが「文化」だとしたら、文化が光るから市民はうれしいわけで、でも光るしかけが全くない。その基本となるソフトが、「自分ごと」である。
- 土地や施設があるから、何か使わなければならないという強迫観念でしか物事を考えていない。匝瑳市の人はいかに幸せに暮らしているから、それほど必要としていないのではないか。
- 旧飯高小学校は、樹木葬の墓地にしたらどうか。最近では、墓標を石で建てないで、木を植えるというやり方もある。木は増えるし、二酸化炭素は吸ってくれるので、緑も増えていいのではないか。
- J T跡地について具体的な方法が見つからない場合は、イベント広場にして、そこにひかりねぎも出してもらい、市場的に地産地消を進められるスペースとして使うのはどうか。
- 旧飯高小学校は、文化の発祥の地として飯高檀林のものを掲示するのはどうか。現在、市文化財の保管は、農協の倉庫を借りて年間 17,000 円の賃借料を払っている。そういう現状を考えると、文化的な環境でもある旧飯高小学校を使って、いろいろな展示を行えばいいのではないか。

(4) その他

◆事務局から連絡

「委員長意見書」に関する各委員からの意見等については、6月3日（金）までに事務局まで報告することとし、次回の会議で資料として提出する。

4 閉 会